

HEADLINE

- 「JCVフォーラム in KOBELCO」開催！……………6月30日
- フレッシュセミナー & ちょいUPセミナー(2年生懇談会)開催……………6月30日

☆「JCVフォーラム in KOBELCO」開催……………6月30日

6月30日(土) 13時より『JCVフォーラム in KOBELCO』がユニオン主催のもと本社会議室で開催されました。当日は曇り空であいにく快晴とは言えない天気の中、ユニオン会員やそのご家族だけではなく管理職を含めた当社で働く従業員やOBの方々など約130名の参加がありました。

フォーラム開会にあたり主催者挨拶として、関谷委員長より「環境問題解決のためには、一人ひとりの取り組みが重要です。“Think globally Act locally”という言葉がありますが、まさに“グローバル(地球規模)に考え、ローカル(地域)に行動する”ことが鉄則なのです。ここ数年間、ユニオンとして環境活動とボランティアにどのように関わっていくのか、試行錯誤を続けてきましたが、いよいよ具体的な活動として定着させ行動するときに来たと思います。その主役となるのは、本日、参加してくれたみなさんだと思います。」と述べられました。



絵本を手に活動の紹介を行う細川代表

引き続き、世界の子供にワクチンを日本委員会(JCV)代表の細川佳代子さんの「ボランティアの私」と題した講演をはじめ、ユニオンから2名参加した「JCV ミャンマー視察ツアー」の報告、今回で2回目となる「モンゴル第2次図書贈呈団」の報告などが行われました。また会場では、JCVの活動を紹介するパネルやワクチンのサンプルなどの展示と、ミャンマーとモンゴルそれぞれの現地での交流の様子を撮影した写真などが展示され、参加いただいたみなさんの注目を集めました。

細川代表の講演では、「講演の題目は『ボランティアの私』となっていますが、間違いでは？と思われる方もあるでしょう。でもこれは『ボランティアと』ではなく『ボランティアの』が正解なのです。『の』と『と』の違いは、『の』だと一体であり、『と』だとふたつの言葉が対比してしまうということです。ボランティアは強制的に『さあ、みんなやりましょう』と言って始めるのではなく、ごく当たり前のことなんです。ボランティアはごく自然な当たり前のことだから、『ボランティア』と『私』は、一体なんです。」と講演が始まり、細川さんの華奢な体から見られる印象とは全く違うパワフルな語りに聴衆も引き込まれていきました。また講演の中で「欧米人と日本人でボランティアへの接し方を見ると日本人に欠けているものがあります。それはやさしさでしょうか？日本人はみんな心が冷たい？そうではありません。『人と違うことをする勇気』です。日本人はたとえそれが善なる行いでも、誰かがやらないと手を差し出す勇気がないのです。みなさんどんなことでも良いから、最初の一步を踏み出す勇気を持ってください。」と力強く述べられました。

細川さんの講演に先立ち、「JCV ミャンマー視察ツアー」参加者である矢吹 亮さん(東京ブロック)より視察の報告が行われました。ミャンマーのカレン族の民族衣装に身を包んだ矢吹さんは、「お金があれば携帯電話や何でも手に入る国ではあるけれど、それを利用できるのはごく一部の人たちで、軍事政権であるため諸外国からの支援が届きにくい状況下にあることから、国民の多くは満足に医療を受けられる状況ではありません。しかしながら、そこで暮す人々はとても素朴で真面目で穏やかな人が多く、支援する意義を充分感じられる国民性だと思います。



会場にはお子さんを含め約130名の方々が

世界ではミャンマーのように定期的にワクチン接種が着実に
行われるようになり、感染症による5歳以下の子どもたちの死亡者数はここ数年で半減しています。

しかしながら、世界中では今でも1日に約4,000人の子どもたちが亡くなっているのも現実です。ワクチンは1本あたり100円以下であり気軽に支援できることから、これからも自分なりの方法で活動に関わっていきたいと思います。」と述べられました。

「モンゴル第2次図書贈呈団」の報告では、贈呈団のメンバー6名を代表して永野竜規さん（研究所ブロック）より報告が行われ、発表した永野さんは、モンゴルでの食事や生活習慣、現地の子供たちなどとの交流について、多くの写真を使い楽しい語り口調で会場を沸かせ、報告の最後には「オブス県マルチン郡の子供たちに将来の夢について尋ねると、ほぼ全員が『お医者さん』や『学校の先生』と答えます。さらにその理由を聞くと、大都会である首都のウランバートルに比べると自分たちのマルチン郡には学校の先生や医者が足りないのです、自分が勉強して自分たちの住んでいる地域に貢献したいという想いだからと言うのです。この言葉を聞いて、この地への図書贈呈は大変意義があるものだと確信しました。」と締めくくりました。また、報告の後にはモンゴル人なら誰でも知っている「おかあさんの歌」や、日本の歌である「世界の国からこんにちは」をモンゴル語に訳し図書贈呈団全員で合唱したところ、事前に配っていた歌詞を手に子供と一緒に口ずさむ方々の姿も見られました。

フォーラムに参加したみなさんからは、「これまでにボランティア経験があったけれど、自分のやっていることが偽善ではないかと悩み少し活動から離れていました。悩むのは当たり前だけど、悩んだまま立ち止まるより一歩を踏み出す勇気が必要だという、細川さんの話を聞いて勇気が出てきました。」という感想が聞かれました。

また、フォーラムの実行委員からは「今回、初めて参加者ではなくスタッフの立場として実際に動き回り大変だったけど楽しかった。」「単にセミナーで良い話を聞けたというだけではなく、自分たちが作り上げた達成感を味わうことができた。」という声がありました。

今回の実行委員をしてくれた方は次の方々です

原田知子、前田貴之、石井宏樹、羽場洋介、角尾 隆、石井 豊、
中川 茂、細見 優、坂本憲太郎、永野竜規、岡田圭司



子どもたちも募金してくれました

また、JCV ワクチン募金として、当日に**24,300円**の募金がありました。みなさんの温かいご支援・ご協力ありがとうございました。

※詳しくは、後日発行される要録集をご覧ください。

☆フレッシュセミナー&ちよいUPセミナー(2年生懇談会)開催……………6月30日

6月30日(土)午前中、恒例となった新入社員を対象にした「フレッシュセミナー」と、入社2年目社員を対象とした「ちよいUPセミナー」を同日開催しました。まず、1、2年生合同で「エコユニオンの活動について」と題し、大野副委員長からエコユニオンの具体的な活動内容について説明が行われました。その後1年生、2年生が別れて、1年生には石田事務局長により労働組合規約・協約、組合財政、共済制度等の説明が行われ、2年生には「自分の仕事



ちよいUPセミナー参加者のみなさん

は何ですか？」や「この会社は点数をつける



フレッシュセミナー参加者のみなさん

と何点ですか？」等と、予めとったアンケートに基づいて大野副委員長を囲み懇談会形式で進められました。その後、1年生と2年生には午後から開催された「JCVフォーラム in KOB ELKO」に全員が参加しました。